

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会 会報

2021年12月20日

59号

発行者 鈴木 克彬

発行所 ぐんま日独協会

〒371-0105

群馬県前橋市富士見町石井 2445-219

電話:027-288-4297

E-mail: info@jdg-gunma.jp

ホームページ:jdg-gunma.jp/



玉原高原のブナ

1. 会長のことば	2
2. クリスマス懇親会ほか	3
3. 森林勉強会 講演会の報告	4
4. 玉原高原ブナ林散策	10
5. 浅草での出来事	12
6. 日本百名山 - 独訳(連載9)	14
7. デザイナー修行奮闘記(連載18)	18
8. Mein Leben in Tübingen — 留学体験記(2)	20
9. 姉妹都市フュッセン市オンライン体験ツアー	22
10. ドイツ人のお名前	24
11. ぶらり ぐんま ドイツ語で!	25
12. お知らせあれこれ	26

1. 会長のことば

出会い・・・人生って、なんと不思議なものでしょう・・・

ぐんま日独協会 会長 鈴木克彬

私は今年の5月、満87歳になりました。私は自分の人生を85歳まで生きれば充分だと考えていましたが、それを通り越してしまい、“今はラッキーな人生をおくっている”と噛みしめています。そしてそのラッキーはすべて、“不思議な多くの出会いから始まり、その上で今日の人生がある”と感じています。

私の成人式は昭和29年東京都世田谷区北沢の北沢神社で、ひまわり会という若いグループの人達と一緒にいました。そのころ、その会で「フォークダンスを取り入れよう」ということになり、フォークダンスを始めたのが私のフォークダンスとの出会いです。その会に入ったのも、偶然友人に誘われたからです。もし会に入らず、またフォークダンスもしていなければ、当然妻の和子とも巡り合いません。

一方、もし勢多郡宮城村にドイツ村クローネンベルクが開園されなければ、私達夫婦は今日のようなドイツとの交流はなかったと思います。当時ドイツ村では、冬期を除き毎月のようにドイツから民族音楽・民族舞踊団を呼び、ショーを行っていました。私たちは、そのグループの方々と友人となり、我が家にお招きしたり、東京へご案内したりしました。喜んだドイツの方々は、「今度は鈴木がドイツに来い。その時は我々がドイツを案内する」ということになり、仕事の方もOBとなっていた鈴木夫婦は、トーマスブックの時刻表片手に、度々のドイツ各地への訪問となった次第です。その結果、「そんなにドイツに行くのなら・・・」と当時の協会員木暮澤子さんから誘われ、ぐんま日独協会の会員になりました。

また、もし私の勤務先の会社が前橋の工場団地に新工場をつくらなければ、また私が転勤しなければ、群馬県人になっていないと思いますし、皆さんとお会いする機会も当然なかったと思います。

人生って不思議ですね・・・“すべてに出会いがあり、その上に現在が存在する”の連続ですから・・・皆さんのご家庭、お付き合い、生き様等もすべて同じような過去の出会いや出来事の積み重ねだと思います。・・・しかし自分の意志も入っていると思いますが・・・

私も胃潰瘍、食道がんの手術も経験し、怪我もしました。しかしお陰様で今日は元気です。相変わらず好奇心は旺盛で旅行も大好きです。運転も大好き、免許更新時、教習所の教官から「随分運転をしていますね。何も言うことは有りません」とも言われました。慢心せず、最大の注意を払い、まだまだ運転をするつもりです。ただ物忘れはひどく、書類をどこに置いたか、人の名前がすぐ出て来ない等は相当進んでいます。・・・駄目ですね・・・

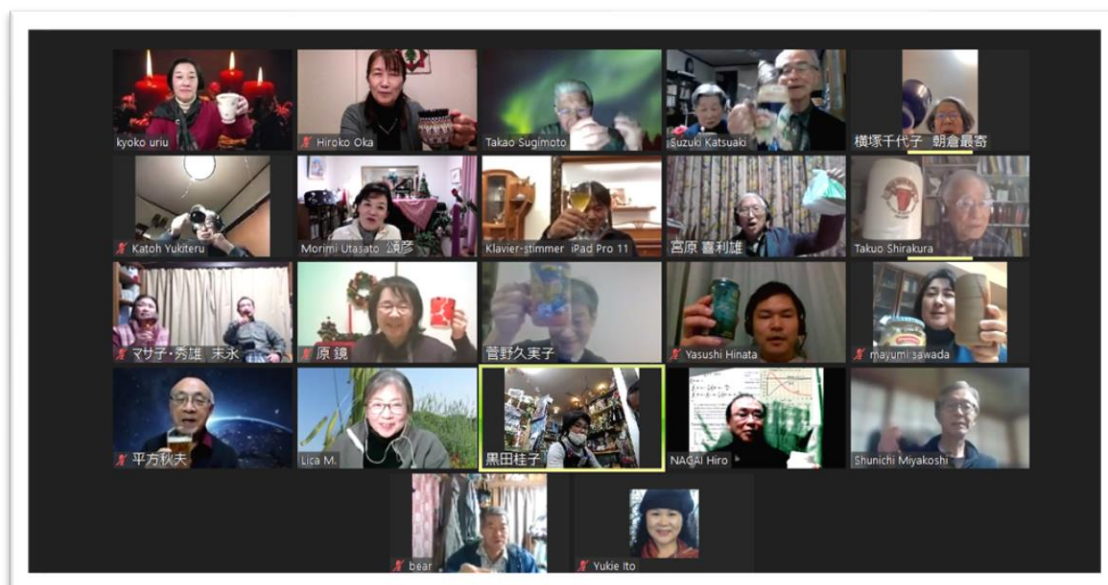
人生はまだまだです。皆様にも、私にも更に新しい出会いがあると思います。その出会いを大切に、今後の人生を有意義に、楽しく生活していきましょう。



【表紙の写真：玉原高原のブナの大木。宮越リカ会員撮影】

2. クリスマス懇親会

広報担当



12月12日(日)、オンラインでのクリスマス懇親会が行なわれました。趣味紹介コーナーは、「ライ麦パンづくり、種まきからパンまで」(宮越りか会員)、「詩吟」と「指笛」(長井宏之会員)、「カトマンズの山」(宮原喜利雄)、「最近ハマっていること」(吉田博文会員)、「私のアトリエ、私の作品」(白倉卓夫会員)、「登山と鱗翅」(瓜生郷子会員)と盛りだくさん。興味津々の質問が飛び交いました。お店をされている会員の方からは、ビデオまたは生中継でクリスマス情報が提供されました。黒田玩具人形店から「クリスマスにお勧めのドイツおもちゃ」、仲沢酒店から「クリスマスにお勧めのワイン」、陶豆屋から「グリューワインティーなど」が紹介され、クリスマスプレゼントを決めた方もあるようです。ドイツにまつわるマジメなクイズ8問で、歴史と政治のおさらいもできました。

オンラインでありながら、参加者が一体となって和やかなそして中身の濃い時間を共有できたのは、企画担当のみなさんの入念な準備と工夫のおかげです。どうもありがとうございました。

当会が、ドイツへの関心という一点でつながるみなさんが、楽しく集えるかけがえのない場であることをあらためて実感した夜でした。みなさん良いお年をお迎えください。(M)

★自己紹介文集 I~ *Treffpunkt*(トレフポイント) 出会いの場★

広報担当

前号からの呼びかけに応じてこれまでに寄せていただいた自己紹介文を小冊子にまとめました。ぐんま日独協会がなければ出会うことがなかった個性豊かな会員ひとりひとりのお話が詰まっています。ハイマート今号と同封でお届けします。メールでハイマートを受け取っている方には、同時に配信いたします。

自己紹介がまだの方、引き続き募集していきますので、ぜひご参加ください!! (M)

3. 森林勉強会報告

ドイツフェスティバルのパネル展に向け森林勉強会では、3 回の講演会を開催しました。その内容を紹介します。

第 1 回 7 月 25 日「群馬県の林業は今」

宮原喜利雄 会員



県内外からの視察の状況

多野東部森林組合常勤理事 浦部秀一郎氏 及び 県環境森林部 石丸順氏 にオンラインで講演していただきました。

初めてのオンラインで要領が掴めないことなどから、講師にお聞きしたい質問などを事前に会員に出してもらいこれに答えていただく形をとりました。森林業に関しては全く素人の私達ですから、何をどう質問すればよいのか迷いました。また講演をしてくださる浦部常勤理事ご自身も何をどう説明すればよいのか困惑なさったそうで、双方の考えが一致したところで事前の質問を作成したという経緯がありました。

これまでに勉強会で得た知識は、林野庁の森林基本計画や県環境森林部の森林林業基本計画などからでした。また、『ドイツ林業と日本の森林』や『多様性』などの著書を読み、ネットを活用し各種論文や講演会記録などを視聴して日本とドイツの現状や歴史的背景を学びました。しかし現実や実態を知るには現場の声を聴くことが大切と考え、講演会を開催することにしました。

幸い県環境森林部と多野東部森林組合から快諾をいただき今回の講演会開催に至りました。



組合員所有の山林で伐倒作業をします



先進の林作業重機で複数同時作業

これまでの勉強会で日独の森林業は基本的に森林官制度、林内路網完備、百年林業、補助金ゼロという四点で大きく違うということを学んでいました。これら既知情報に基づき、多野東部森林組合での取り組みはドイツに比べてどこがどのように違うのかという想いがあっていささか失礼な内容の質問を想定しながら講演会に臨みました。そして講師の浦部常勤理事ご自身は、ドイツの林業現場を訪問して実際の作業を視察し、我々が得たドイツの林業事情を十分にご承知なさっていたことに驚き、私の不明を恥じ入りました。さらに、法的制約のもとでも如何にドイツの森林官業務に近い森林組合業務にするか熱心に取り組んでいるかを教えられました。また不在村森林所有者による山林荒廃は日独ともに大きな問題である事を知りました。

群馬県の方針にも記されている木育(ウッドスタート)に関しては今後に期待したいと思います。また組合の組織が民間会社同様に林内請負作業全般ばかりではなく林業全体の指導や林地の集団化、木材の販路確保や仲介、各種資金の申請手続き、購買金融事業も行っている事には驚きました。そして 1,500 名を超える森林所有者が擁する広大な森林を 8 名の職員と 14 名の従業員で回している実態には驚き尊敬の念を抱きました。



研修会や講演会の開催



IoT や ICT を導入した林積調査



山の自然と人の安全を守るための現場指導



この A 材の売価が楽しみです



写真提供: 多野東部森林組合





20mの長尺材木を林地から消費地まで輸送できる道路網が整っている

講師はドイツ在住 25 年の森林環境コンサルタント ジャーナリスト池田憲昭氏。日独の「架け橋」として、森林、木材、建築、エネルギー、農業などの分野で活動なさっています。早朝のドイツからオンラインでご講演いただきました。

勉強会における過去の学びは主に池田氏著書でおよそ下記の内容に集約できます。

■日本では森林法により法律で林内における作業レベルまで詳細に規定されており、許認可事務量も多いので地方の事情や林業現場の実態に合わない現実がある。

ドイツの森林法は国レベルの大枠で規制し、現場レベルの規制や管理は州法で制定されている。更に州法の維持は関連する団体や集団、学者など多くの関係者が集う調整組織で管理運営されていることが育林～消費企業までの木材関係業全体(クラスター)を勢いづけている。

■ドイツでは法に基づいた『森林官・専門官』制度が林業クラスター全体をカバーしており、専門的に指導と関与をする公務員がいる。この公務員は国家資格が必要で、現場で必要となる土壌学・植物学・細菌学・動物学・気象学・薬学など理系の専門教育が必要であり大学の森林学部や専門学校が各地に多数存在している。また森林官や専門官には異動や転勤は無いので森林と共に生涯にわたり生活できる。そのため人気の高い職業になっている。

■林業現場作業の利便性を高めて生産性を上げるためには現場作業路や林道整備が大前提だ。そのうちの林道は森林法にも定められており、州の予算で施工されるが、現状は林道整備がほぼ完了している。作業路は個々の育林事業ごとに民間の業務になっている。

日本の林業向け補助金はドイツに比べて森林面積当り 20 倍に達する。

■ドイツは百年木林業であり、大径木・自然林・混交林を目指した法定の業種である。その手段の第一は皆伐否定で選択的間伐主義であり百年先の優良木を育てる目的で間伐する。日本は一斉皆伐主義(林業の農業化)であり、長期的な生産性が低く土砂災害を招く危険もある。

講師の意向もあり、的を絞った内容にする目的で講演会の表題は『気配り森林業』になりました。現在世界的な動きとなっている脱 CO2 の活動や SDGs 思想がドイツの森林文化背景から発したものであったことが確認できました。そして気配り森林業とは、100 年先を念頭にした自然保護と森林の合理的継続的維持を組織的具体的に進めることで、特に近年の気象異変と降雨災害にも備える森林業でなければならない、大気気象学・地質学・森林学・環境学・植物学・動物学・昆虫学・土中微生物学…等々多くの自然科学を総動員して進める大事業であるという説明でした。

なお、8 月 22 日付けの上毛新聞に上記のオンライン講演会が紹介されました。

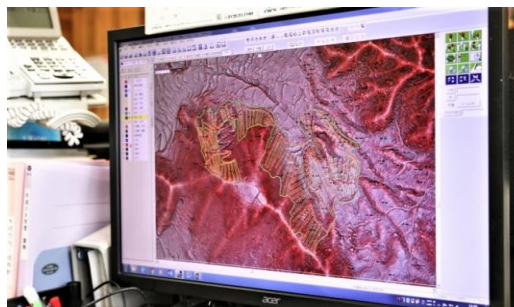
講師の池田憲昭氏の紹介と、出席した会員に加えて県と市の職員も参加した旨が掲載されました。

記事には講演内容の主旨を手短に紹介してありました。

- ① 日本国内の皆伐が森林の保水能力を失う原因になり、土砂崩れの危険性が高まると指摘。
- ② 持続可能な森林にするには、多様な植物を育てることが大切だと説いた。
- ③ 間伐で光の差し方を調節していくことが求められ、その際は選木が大切な一方、一連の作業は幅広い知識が必要でマニュアルも通用しない。
- ④ 日本は教育システムや人が乏しく、森林業の人材育成が進んでいない。



大径木を伐り出す林作業実習生



路網や作業路の設計と管理

写真提供：池田憲昭氏

第3回 11月27日「世界の森林から見た群馬の林業」

平方秋夫 会員

去る11月27日(土)、森林勉強会の第3回講演会がオンラインで行われました。講師は、宮越俊一さん、リカさんご夫妻のお世話で、筑波大学大学院名誉教授の中村徹先生にお願いいたしました。先生は「植生学」がご専門で、植生のご研究のために世界多くの地域をその対象としてご活躍されておいでです。

1 時間にわたり、私たち素人にも分かり易く話してくださいました。まず先生の話は「大まかに言うと世界の3分の1が森林、3分の1が草原、3分の1が沙漠である。」でした。

I. 植生について

1. 世界の植生は降水量と気温で決まる。
2. 降水量が多いと森林に、少ないと草原に、雨がほとんど降らないと沙漠になる。
3. どんな森林になるかは気温で決まる。

II. 「森林とは？」(森林の定義)

日本の森林法、京都議定書(COP、1997)、FAOの3種類の定義がある。

1. 森林法(日本)の定義:

木竹が集団して生育している土地及びその土地の上にある立木竹。このほか木竹の生育に供される土地。ただし、公園や果樹園などの立木竹を除く。

2. 京都議定書(COP、1997)による日本の森林の定義:

- ① 林冠が土地の30%以上を覆う
- ② 高さ5m以上
- ③ 面積0.3ha以上を覆う
- ④ 森林幅20m以上

3. FAO 2000の定義(FAO:国連食糧農業機構):

- ① 林冠が土地の10%以上を覆う
- ② 高さ5m以上
- ③ 面積0.5ha以上

III. 世界の森林のデータ

1. 世界の森林面積:39.52億ha(天然林95%、人工林5%)

内訳:

熱帯林 47%、亜熱帯林 9%、温帯林 11%、北方林 33%。

世界の木材利用:

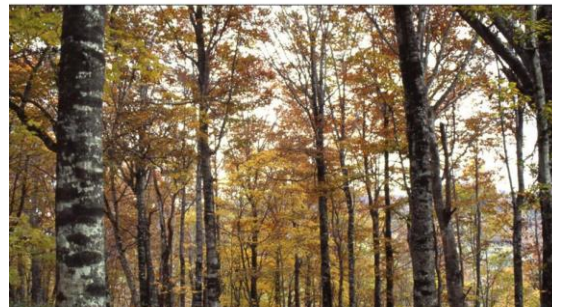
燃料用 53%、産業用 47%。

世界の森林率:

ヨーロッパ 44%、アジア 19%、北中米 33%、アフリカ 21%、オセアニア 24%、南米 48%



熱帯雨林(ボルネオ島・ブルネイ)



白神山地のブナ林



北海道の針葉樹林(トドマツ)

2. 日本とドイツの森林・林業の比較

日本とドイツの森林・林業		
	日本	ドイツ
国土面積	378,000 km ²	357,400 km ²
森林面積	250,000 km ²	110,000 km ²
森林率	67%	32%
木材生産量	3,000 万m ³	6,000 万m ³
林業就労者	6.3 万人	130 万人

IV. 群馬県の森林データ他

1. 群馬県全体の面積:6,362km²

森林面積 4,272km² (森林率 7.2%) のうち国有林は 1,960km² (県土の 30.8%)、民有林は 2,318km² (県土の 36.4%)。

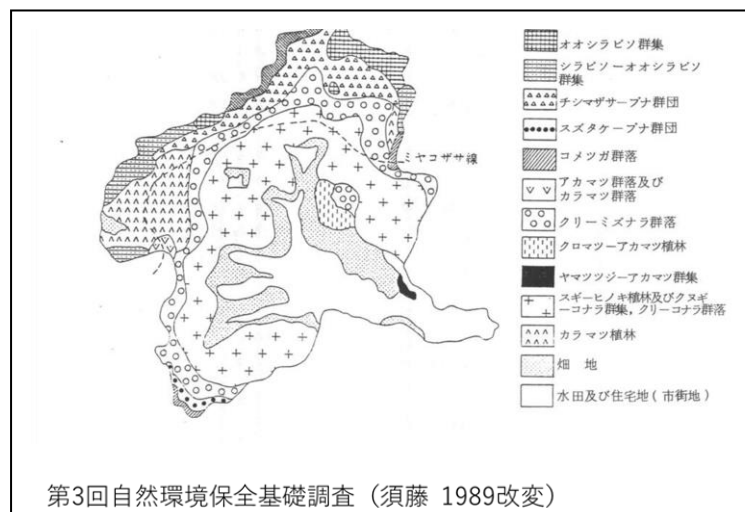
2. 群馬県(前橋市)の暖かさ指数は 121.9。従って森林群系は照葉樹林が成立する。

3. 「適地適木」(←適材適所)。

森林の多面的機能:経済的機能(林業)、公益的機能(水源涵養機能・環境保全機能・生物多様性保全機能・レクリエーション機能など)

これらの機能を保全するために、植栽に当っては環境にあった樹種を選定する必要がある。これを誤ると不成績造林地になったり、枯死したりする。

「尾根にマツ、中程ヒノキ、谷にスギ
(尾根マツ 谷スギ 中ヒノキ)」



群馬県の植生

以上、世界の植生に関して先生は多数のスライドを使いながら、大変丁寧に説明をしてくださいました。また、森林の定義では成程と感心する一方で、扱う機関によってこれ程大きな相違が出るものなのか、不思議な感を持ちました。

後半では会員の質問に対して、一つ一つ分かり易く説明をしていただき、今後の森林勉強会のパネル作成に向けての貴重な示唆をいただきました。

★今後、勉強会ではパネル作成への作業が本格化していきます。興味がある方お手伝いできるという方はぜひ一緒に活動をしてください。皆さんの参加をお待ちしています。

森林勉強会は毎月第2、第4土曜日の夜19時30分~21時にZoomでオンライン開催していますので是非のぞいてみてください。事前に案内メールを毎回差上げています。

4. 玉原高原ブナ林散策

瓜生郷子 会員

9 月のある日、「玉原高原ブナ林へのお誘い」と書かれたメールが森林勉強会の皆さまに届きました。発信は会員の宮越夫妻から。もちろん自然大好きな私は「行く行く」と嬉しい気分で早速に参加の返事をしました。事前に調べた情報では、玉原高原のブナ林は、世界自然遺産の白神山地に次いで 2 位、地理的には関東地方に位置しますが、気候は日本海側気候に属し、冬には 3m 前後の積雪がある地域だそうです。我々森林勉強会有志は、10 月 3 日に玉原高原のセンターハウスに集合、いよいよブナ林への散策です。

センターハウスのゲートから舗装道路を西に行くと、すぐに野鳥の案内板が立つ水路があり、「探鳥路」という名前の道が始まります。少し急な道を上がると、そこはブナ林、まず始めに案内してもらったのがなんとツキノワグマさんが木に残した爪痕でした。登るときに爪が刺さった痕、降りるときに引っ掻いた 5 本の太い筋、なかなかリアルでした。その先はなだらかな道が続き、野鳥のさえずりを聞きながら白い樹皮のブナの木々を探索、ブナの樹皮には、コケに似た地衣類（菌類や藻類が共生したもの）などが付いていて、独特の模様のコントラストを描いています。



この森は 1944 年まで伐採が行われていましたが、1945 年以降は自然放置されているそうです。大木が今でもたくさん残り心地よく散策できる森が形成されているのは、当時、寺崎渡博士が選木し間伐をされていた業績で、その伐採法は、個体の成長の良否と幹曲がりや傷、樹冠の均整などの優劣を考慮して樹木を 5 段階に分けて、伐採する木を選定、そして間伐する「寺崎式樹型級区分」を使った将来木施行を行っていたからと推測されます。大正の時代にドイツなどで

森の保ち方を学び 100 年後を考えて間伐をした先人たちに敬意を表しながら、ブナを中心としたミズナラ・トチノキ・ホオノキ・ヤマモミジなどの木々を観察し、巨木もある森の中を歩きます。また倒れて朽ちた木の年輪を想像したり、色々なキノコの名前を宮越さんから伺ったりして進むと“ブナ平”に出ます。大きな“シナノキ”のある、半径 5m くら



らいの広いスペースがある分岐点に出ます。私たちはそこで休憩、シナの大木の前にあった倒木に座りお昼ご飯を食べました。そのシナの木



横には“ブナ地蔵”と呼ばれる、3 人ほどの子供が座っているかのように見えるブナの切り株があり、賽銭箱まで置いてあるのに苦笑です。

森の観察の中で、ブナの葉は、卵形で先が尖っていて、縁（ふち）は丸みを帯び支脈の先は凹んで波打っているのが特徴なことを知りました。ブナの実実はトゲのある殻に包まれていて、殻が割れて落ちている感じは栗のようでした。中の実をかじった勇気のある方が「あっ、



美味しい」と・・・本の記述によれば、濃厚な脂肪分を持った甘みで、さくさくとした食感もあり、食べだすとハマってしまう味だそうです。熊さんにも栄養価満点な美味しい食料なのでしょうね。

昼食を終えた私たちは、ブナ平から少し進んで水源ルートと

呼ばれる下りの山道を玉原湿原の方向に進みます。下りではありましたが、なかなかの登山コースで途中からは道の横を小川が流れ、沢越えなども繰り返します。とても澄んだ水で、この森に降った雨がゆっくりと染み出して、湿原の水源となっているのがわかる気持ちの良いコースでした。



その道を降りていくと木道が始まり、草紅葉の見事な湿原が目の前に広がりました。本来であれば玉原ダムができた時に、水の中に沈むはずだった貴重な湿原で、植生の珍しさから尾瀬に例えられ、「小尾瀬」とも呼ばれ、水芭蕉をはじめ、四季を彩る可憐な草花を見ることができるそうです。近年はニ



ホンジカの食害が問題になっているようで、水芭蕉は防御柵に囲まれていました。帰り道にはブナの湧き水を飲めるところがあり、冷たい美味しい水を試飲後、水筒に詰め持ち帰りました。今回森林勉強会での活動のおかげで、森や木々への知識が豊富になっていたことが助けとなり、とても有意義な素敵な時間を過ごすことができました。企画・案内をしてくださった宮越夫妻には深く感謝です。次は別な季節のブナの林を楽しみたいと思っています。



玉原高原：インフォメーション

【アクセス】

関越自動車道 沼田 I.C.から玉原方面へ
約 30 分(約 20km)

【センターハウス】

時間：9:00～17:00

定休：木曜日

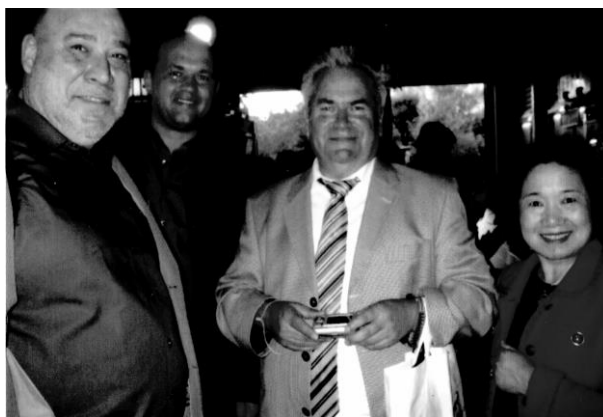
電話：0278-23-9507

<https://www.numata-kankou.jp>

5. 浅草での出来事

對馬良一 会員

2008 年 4 月の全国日独協会でドイツ各地を訪問する旅行を行なったときに、北ドイツのヴェザー川の河畔の村ライライフツェン (Reileifzen) という人口 200 人の小さな村で大歓迎を受けた。桜まつりの最中で村長さんをはじめ桜の女王や村人のほとんどが集まっての歓迎だった。日本の旅行団の宿泊は当初はニーダザクセン州の首都ハノーファー (Hannover) を予定していたが、世界の見本市 (メッセ) の開催のためホテルが満杯で付近の小さな村、Reileifzen の民宿に分散して泊まった。その時に村長さんをはじめ多くの村人から心温まる歓迎を受けた。



左:ミュラー氏 中央:マイヤー村長 右:樋口さん

2010 年 11 月 12 日、村長さん他 3 名の方が初めて日本にきた。木村元駐独大使、橋本とちぎ日独協会会長らが音頭をとり、旅行に参加した仲間で歓迎会と食事会をホテルニューオータニで開催した。歓迎会に大喜びで約 2 時間 30 分の時間もアツという間だった。閉会の言葉の後、「誰か浅草の仲見世を案内して頂ける人はおりませんか？」との声に、私は手を挙げた。私の帰路は東武浅草駅からなので 4 人の方を案内することになった。湘南日独協会の樋口由美子さんも同行した。



善意の通訳証とバッチ

私はいつも東京や浅草方面に行くときは必ず”善意の通訳“(Goodwill Guide)のバッチを襟に着けていた。皆さんの前で“善意の通訳バッチと身分証明書”を見せ、意気揚々と浅草に向った。樋口さんと、とちぎ日独協会の菊池さんと 3 人で浅草を案内して歩いた。菊池さんは途中でわかれた。

浅草寺で安全祈願をし、買い物や散策しながら日本の下町風情を楽しんだ。村長とともにいらしたミュラーさんは日本の子どもにキャンデーを配っていた。プロレスラーの様な巨体のミュラーさんに子どもたちは驚いていたが、最後はみんなニコニコ顔でお礼を言っていた。彼にはまだお孫さんがいないらしい。大きな手で頭をなでられた子どもたちは大喜びだった。

浅草寺の横で菊花の展覧会が行われていた。菊花の素晴らしさに皆さんは驚いていた。皆さんと休憩所で休んでいたとき、突然「△・※・・※・△・×・・」と大きな叫び声が聞こえた。英語がわからない私だが、混乱する外国人夫妻から動作や身振りで何とか話を聞いた。トイレに貴重品を入れたバックを置き忘れ、引き返したがすでになくなっていたという。「マネー・パスポート・・」と泣きだしていた。女性用のトイレだったので樋口さんが行って確認したがすでになかった。周囲の人たちは無表情で見ている。

田舎者の私は少しでも助けてやろうと樋口さんに奥さんを落ち着かせるように頼んだ。最初に警察へと思い、派出所に行ったが不在だった。浅草寺の事務所に行って警察の所在地を尋ねたがそれも不在だった。横浜に外国の偉人が来るので警護に行ったらしい。警備所があることを聞き、警備所に駆け込み事情を説明した。外国人夫妻は藁をもつかむ思いで私と樋口さんにすがり付いたのだと思う。

警備員は、「本人を連れてきてください」と言う。・・・私は「何か届け物があったのですか？」

「落とし物や忘れ物は有ります」との警備員の言葉に私は急いで警備所を出て本人を連れに戻った。途中で樋口さんが老夫妻を連れてくるのに出会った。

「この人たちです」と警備員に紹介した。「お名前は……」警備員は事務的に老夫妻に尋ねた。「……」なんて言ったか聞き取れなかったが、「これですか……」と差し出された小型のバックに、夫人は「ワーア……」と悲鳴のような声を張り上げて飛びついた。

「サンキュー・サンキュー……」言葉にならない。

初めて来た日本旅行で大変な失敗を起こし不安だったと思う。

夫人は私にしがみついていた。「サンキュー・サンキュー」と嬉し涙を流していた。私は首が痛くなるほど抱きしめられた。涙で顔中ベタベタになった。夫人は樋口さんも交えて代わる代わる私たちに抱きついた。私たちも自然と涙が出た。今度は樋口さんと私が自然と抱き合った。「良かったね……」ドイツでもどこでも失くした物は 99%出ないのが当たり前。樋口さんも私も同じ気持ちだった。少しでも助けてあげたい……最良の結果で終わって本当によかったと思う。

「樋口さん良かったね……」「對馬さん……」彼女も泣いていた……

「名前を教えてください」……ためらっていると警備員が「私も記録しなければならないので教えてください」と言われたので、ぐんま日独協会、湘南日独協会の二人の名刺を出して渡した。老夫妻は大事そうにバックに入れた。

老夫妻は別れ際までお礼を言っていた。涙でべとべとになったが気持ちは良かった。「少しは日本人の親切さが判って頂けたかね？」と樋口さん……

私は都会の人の無関心に若干失望した。忙しいのか、他人の事に無頓着なのか……今回のことで私は”善意の通訳““バッチの意味を自分の行動で示すことができ、これからも勇気をもって行動しようと決意した。……

ミューラーさんは「君たちは素晴らしいことをしましたね」と褒めてくれた。彼らには私達が見も知らない外国人になぜこのようなことができるのか理解できなかったようだった。

コーヒーを飲みながら日本の印象を尋ねた。皆さんは、日本は素晴らしい、また来たいと言っていた。私は浅草で皆さんとお別れし、樋口さんがホテルまでお連れした。浅草駅から館林までの帰路の車中であのカナダの老夫妻のことを考えた……日本の旅を回顧するたびに生涯忘れることなく、私たちの事を思い出すだろう。お元気で、また日本に来てください。

名前も知らないカナダの老夫妻さん!! 楽しい良い旅を Gute Reise……

(2010.11.13)

6. 日本百名山 独訳 連載9

深田勝弥 会員

43 浅間山 (2542 米) 43 Asama-yama (2542 Meter)

43-01

上越線廻りの北陸急行がまだない頃、私の郷里からの東京行きは信越線によった。夕方汽車に乗ると、軽井沢あたりでうっすらと夜が明ける。鋼鉄色をした大空に、ズングリと丸坊主の山が浮かんでいる。浅間山である。長い夜汽車の果て、最初に私を迎えてくれる自然がこの山であった。関東に近くなったな、という感じをこの時ほど新鮮に受けることはなかった。

Als ich noch jünger war, am Abend in den Schnellzug auf der Linie *Shinetsu* von meiner Heimat nach Tokyo eingestiegen, ist der Zug am frühern Morgen gegen *Karuizawa* angekommen. Hier sah ich den kuppelförmigen Berg unter dem stahlblauen Himmel schwimmende Berg. Der ist genau der Berg *Asama-yama*. Am Ende der langen Zeit im Nachtzug fühlte ich frisch immer „Ach, ich habe mich dem Gebiet *Kantoh* genaht“.

43-02

東京へ遊学以来、休暇毎に私は何十回この山の裾を通ったことだろう。それはいつも膨大な容積で、独占的な形で曝け出しの肌で、そして頂にはいつも薄い煙を吐いていた。汽車の窓からこんなに眼近く、高く、大きく、秘密なげに仰がれる山は、他に例がない。

Seit meinem Studium in *Tokyo*, wie viel Male war ich in jeden Ferien an seinem Fuß vorbeigefahren. Immer war er mit riesigem Volumen, mit unabhängiger Form, mit nacktem Oberkörper und den dünnen Rauch ausstoßend. Kein Berg ist so naher, so größer, und so heimlich vom Fenster des Zuges aufzublicken als anderes Beispiel.

43-03

昔は古い街道が山裾を通っていた。北から北国街道が、西から中仙道が、山麓の高台へ上ってきて、追分の宿で一本になる。今の軽井沢はまだ荒涼とした不毛の高原だった。そして旅人の眼を打つのは浅間山であった。ある歌人は、

信濃なる 浅間の嶽に 立つ煙 をちこち人の 見やはとがめぬ
とよんだ。俳人芭蕉は、
吹き飛ばす石も浅間の野分かな
と詠じた。そんな風流心のない庶民さえ、
浅間さんなぜ焼けしゃんす
腰に追分もちながら

と歌った。哀調で知られている追分節の発生地はここである。

In alten Zeiten führten zwei Straßen vom Norden Straße *Hokkoku* und vom Westen *Naka-sendo* auf der Anhöhe des Fußes, und sie stießen sich zu einem (Scheidenweg) bei der Unterkunft *Oiwake*. *Karui-zawa* war damals ein wüstes Hochland. Und was die Reisenden große Augen gemacht ließ, ist der Berg *Asama*. Ein Dichter schrieb folgendermaßen,

Der Rauch aus dem Gipfel
Asama in *Shinano*
steigt zum Himmel auf,
von fern und nahe geblickt,
wundert sich wer darüber.

Und von Haiku-dichter *Bashoh*,

Auf dem *Asama*
der Taifun bläst die Kiesel
sogar so wild fort.



Und die Geschmacklosenden sogar,

Liebliche *Asama-san*
Warum brennst du so immer
aus dem Verdruss
trotz des Scheidenweg am Fuß.

Die Wiege des Volkslieds steht hier, das als das traurige *Oiwake-bushi* bekannt ist.

43-04

おそらく浅間山ほど芸術の対象になった山もないだろう。近代になってからでも、島崎藤村の詩によまれ、堀辰雄の文章に現れ、梅原竜三郎の油絵に描かれている。

Kein Berg ist wohl der Gegenstand der Kunst, als der *Asama*. In der Neuzeit auch, hat *Shimazaki Tohson* Verse gemacht, *Hori Tatsuo* den Roman geschrieben und *Umehara Ryusaburoh* die Landschaft gemalt über den Berg.

43-05

わが国で火山の代表と言えば、浅間と阿蘇である。いつ頃から噴き始めたか知らないが、それは今日に至るまで絶えることなく煙をあげている。浅間山は煙と共に生まれ、今も煙によって名を博している。平常は薄い白雲かと思まごうようなおとなしい噴き方だが、時々堪忍袋の緒を切って大あばれする。最近二十年間だけでも、大小の爆発は千八百回以上に及んでいるという。昔からの浅間山の噴火史を辿ったら、莫大な回数になるだろう。中でも有名なのは天明三年の大爆発で、数キロにわたる熔岩を流して、山麓地帯に大災害を与えた。今は名所となっている鬼の押し出しはその名残である。

Die typischen Vulkane in Japan sind *Asama* und *Aso* (97). Ich weiß nicht, wann sie den Ausbruch angefangen haben. Sie rauchen noch ständig immer noch. *Asama* ist mit Rauch geboren und bekannt geblieben. Er ist gewöhnlich ruhig, wie täuschend durch die Wolke. Aber er wütet ab und zu, wie die Geduld reißen. Die Ausbrüche von verschiedenen Größen sollen seit zweihundert Jahren über 1.800 Male zählen. Es wäre sicher gewaltige Male vom Ausbruch, wenn man die Geschichte über *Asama* nachgeschlagen würde. Vor allem ist der Ausbruch zum dritten Jahr in *Tenmei* Zeit (1783) am berühmtest. Die Lava floß einige Kilometer weit und hat das große Unglück im Gebiet des Fußes verursacht. Die heutige Sehenswürdigkeit *Oni-oshidashi* ist die Spur von dem Unglück.

43-06

日本中部の山に登る人は、それがどの山であろうと、そこから浅間山を見逃すことはないだろう。その孤立した大きな山容と、まるで自己の標識のように煙をあげているので、すぐに見当てることができる。厳冬の横手山の頂上から真向いに、まっ青な空にモクモクとキャベツのような煙を噴いていた浅間、晩秋のハケ岳の上から佐久平を距てて、大きなシルエットとなって暮れて行った浅間、浅間ほどどこからでも見える山はない。冬のよく晴れた風の強い朝なら、東京の郊外からでも認めることができる。逆にこれほど四方の山を眺める好展望台はないだろう。日本アルプス、秩父、上信越、日光、ほとんどの山を指顧することができる。

Die Bergsteiger dürften wohl den *Asama* nie übersehen. Überallher in der Mitte Japan zu ihm geblickt, können sie ihn leicht finden, dank seiner isolierten Gestalt und dem Rauch wie seine Kennzeichnung. Im Frost gegenüber vom Gipfel *Yokoteyama* geblickt, raucht er in die blauen Himmel, wie Haufenwolke und im Spätherbst von dem Berg *Yatsugadake* (64) über die Ebene *Saku* geblickt, ist er auch, in den Abenddunkel, wie große Silhouette geschwunden. Kein Berg ist so überallher zu sehen als der *Asama*. Wenn es schönes Wetter und starker Wind im Morgen ist, ist er sogar vom Vorort von Tokyo zu sehen. Im Gegenteil kann man von ihm auf fast alle überallhin geblickt, zeigen die Berge sich in japanischen Alpen, *Chichibu*, *Johsh-shinetsu*, *Nikkoh*.

43-07

私が始めて浅間に登ったのは、高等学校一年生の夏であった。小諸から夜をかけて登った。普通峰ノ茶屋からの登りは、ザクザクした砂礫を踏んで行く単調な道だが、小諸からの登山は、牙山や黒斑山などの岩壁を見上げ、高山植物の咲き乱れる湯ノ原高原を通して、変化の多い楽しい道であった。そこから頂上のドームにかかって、絶頂の火口壁で噴煙に襲われて逃げまどったことを今でもおぼえている。

Als ich in der ersten Klasse an der Oberschule war, bin ich im Sommer durch die Nacht von *Komoro*, die Kiese tretend, auf den *Asama* gestiegen. Der Aufstieg von *Mineno-chaya* ist gewöhnlich der langweilige Weg. Aber der Aufstieg von *Komoro* war, zum Berg *Gitsupa*,

Kurofu und Felsenwand aufblickend, und durch das Pflanzen blühende Hochland gehend, wechselvolle, angenehme Weg. Ich behalte im Gedächtnis noch jetzt, dass ich bei der Kraterwand vor der Rauchwolke geflohen war.

43-08

戦後私は追分で一夏を過したことがあった。脇本陣の油屋に泊っていた堀辰雄君の世話で、その隣の、昔お女郎屋であったという古い家の二階を私は借りた。机を据えた前二階の底窓から、三角にとがった浅間の剣ヶ峰がよく見えた。その一夏で私は浅間山の周辺はほとんど余す所なく歩いた。小浅間山にも、石尊山（寄生火山の一つ）にも、登ってみた。ゆったりした傾斜を持った大きな裾野の中へ、幾度もさまよいこんだ。落葉松の林の中に続く旧草津街道を辿ってみたこともあった。そしてそれらのワンダリングの決定的なバックをなすものは、常に浅間山であった。

Nach dem Weltkrieg habe ich einem Sommer in *Oiwake* verbracht. Dank der Fürsorge von *Hori Tatsuo*, konnte ich in der ersten Etage des alten großen Nachbarhauses wohnen. Der Berg *Kenga-mine*, wie Zeltdach, war von dem Fenster gut zu sehen. Ich habe während dem Sommer fast alle in der Gegend *Asamas* besucht. Ich habe auch den *Ko-asama* und *Sekison-san* bestiegen. Ich bin mehrmals im großen schrägen Fuß des Bergs geirrt. Ich war entlang der alten *Kusatsu-Straße*, die zum Wald der Lärchen führt, gegangen. Und der ausschlaggebende Hintergrund dieser Wanderung war immer der Berg *Asama*.

秋の雲吐きて浅間は静かなり 勝弥

In die Herbstwolken
den Rauch ruhig ausatmend,
der Berg *Asama* Katsuya

(続く)



写真は、昭和33年、ヒマラヤ遠征から帰国し実家に帰省した深田久弥氏（前列左から3人目）と、甥である筆者（後列中央）

事務局註：深田勝弥会員は、作家故深田久弥氏の甥という関係から名著「日本百名山」の独訳に挑戦されました。北海道から南下しながら掲載しますが、百座を網羅する時間とスペースがないため一定地域に偏らないように選択しながら進めています。なお、深田会員が5年かけてドイツ語版を完成させた経緯が、故深田久弥氏の故郷の北国新聞（2020年10月25日付）、上毛新聞（2020年11月18日付）、朝日新聞（2020年1月17日）に紹介されました。

7. デザイナー修行奮闘記 - 連載 18

井上晃良 会員

カールスルーエでの新生活

新しい街での生活が始まった。今度はホームステイではないので、日本人 2 人だけの生活である。大学の授業が始まる迄の毎日は、その準備で忙しかった。特に外国人局へ行って滞在ビザをドイツ語学校時代の 2 ヶ月毎の更新手続きから、大学の入学許可証で 1 年間のビザ取得が叶えられたのは嬉しかった。外国に居るという事実を思い知らされるのが、滞在ビザの取得であるからだ。残念ながらまだ結婚していなかった恋人については、その延長ができず、語学学校のビザが切れた時点で帰国しなければならなかったのは辛かった。その後は、1 人暮らしになるからである。ただ、少なくとも大学に籍を置いている期間、私自身がビザ切れの心配が不要になったことで随分楽になったのは確かである。

新しい住居からトラムで 10 分程度のところにカールスルーエの中心商店街であるカイザー通りがある。この商店街通りは大手百貨店が向かい合わせに 2 軒ある他、様々な店が軒を連ねている。トラムの電停は、このカイザー通りの中心でもある百貨店の前に電停があり、トランジットモールと呼ばれるトラムやバスと歩行者のみ通行が許された道になっている。土曜日の午前中など、この通りの賑わいは、当時から中心商店街の空洞化に悩む日本の地方都市とは対照的に映ったのである。大学の授業が始まる迄のひとときを、このトランジットモールで散策する楽しみは、まだ不安の多い新しい土地での生活にささやかな華を添えたのは言うまでもない。

私にはもう 1 つ気になることがあった。カールスルーエの街中を縦横無尽に走るトラムの存在である。それまで住んでいたブレーメンにもトラムは走っていたが、それは 1960 年代からの古い車両で特に魅力的には映らなかったが、この街のトラムは、旧型車両に混じって時折モダンでスマートな大型車両がやってくるのである。これら新型車両は、低床式ではなかったものの、明るく快適で静粛な室内は、私自身のトラムのイメージが根底から覆されたのである。それ以来、変貌を遂げつつ世界的に有名になるカールスルーエのトラムであるが、その時は、モダンな車両を乗車できる楽しみにしてただけで、今のようない世界的なトラムのムーヴメントを想像することもできなかった。



健康保険

入学手続き時に必要なものの 1 つに健康保険の加入証明書があり、これを忘れてはならなかった。ドイツ語学校時代は、そのあたりの心配はほとんどなく、全てゲーティンスティチュートの事務局が代行してくれていた。そこで、当時どの街にも見掛けた大きな保険会社に出向いて相談することにした。すると私の応対をした担当者は、学生ビザのあるパスポートと大学の入学許可証を確認すると、手慣れたように学生用の保険を用意してくれた。日本の健康保険と違うのは、同じように国民皆保険制度でありながら、その保険販売や支払いについては民間会社で行われていることである。余談になるが、サラリーマンなど定期収入のある社会人は、健康保険料は決して安いものではない。他に、医療保険の外来で最優先に受診できるなど、いわゆるファーストクラスのサービスが受けられる健康保険もあるが、保険料金はさらに高額になるので一般的ではなく、医療そのものは同じと聞いている。また、一般の医療

のサービス水準は、日本よりも高いと感じたので、特に不満を持つ人も少ないのであろう。これに対して、定期的な収入のない学生用の保険は非常に安く、それが 2 人分であった場合でも、同居の家族とみなされれば、单身とほとんど変わらない金額であったことにも驚いた。当時は、医者などに掛かった時に必要な保険会社の名前の入ったクーポンのような冊子を貰った。今は樹脂製の IC カードである。

もし医者に掛かった場合、現金を持たなくても受けられる制度は、その後初めて医者に掛かった時に実感したのだが、西ドイツの保健医療を始めとした社会保障の充実ぶりには、西ドイツという国が国民を守っているという実感が湧いてきたのが、この時である。

入学手続き

大学の授業は、10 月から 1 月迄の冬学期と 4 月から 7 月までの夏学期である。入学も卒業も夏と冬にあり、私は冬学期からの入学となったが、授業が始まる少し前に手続きが設けられている。この日は重要で、大学側に必要書類の提出や手続きの手数料の支払い、そして履修授業が決められることになるのである。私の場合、入学許可証の他、先に手続きをした保健会社発行の健康保険加入証明書を提出すれば、晴れて大学生となれる。その手続きが済むと、その場で手数料を支払うのであるが、これが当時で 2~3 千円ぐらいだったと思う。ドイツはほぼ全ての大学が公立で、私の行く大学もバーデンヴュルテンベルク州立大学である。日本では信じられないが、授業料は無料であった（現在は、1 学期 500 ユーロ程度）。最後に、授業の時間割を各学生が担当者と一緒に作成する。私は初めての学期なので、全く分からない作業であったが、担当者もそれを承知しているため、開講されている中から必要な単位数を選んで履修授業が決められてしまった。私は 2 年間（4 学期）で卒業する Aufbaustudium（上築課程）であり、一般の 4 年制（8 学期）の 5 学期目とほぼ同じ授業を履修すること。私の通う学校は専門の単科大学のため、日本の大学と異なり一般教養はない。また、日本で卒業した大学で単位を取得した一部の科目については、履修免除も受けることが出来た。授業は講義と実習科目で構成されている専門性の高い授業のみである。下は私の履修した最初の学期の時間割である。

木曜日と金曜日の 2 日間は「プロジェクトワーク」と呼ばれる実習授業のみで、履修科目の中心となる。両日共丸 1 日が費やされる最も重要な授業である。プロジェクトワーク以外の講義科目や演習・実習科目は、可能な限りプロジェクトワークのテーマとリンクしたテーマで行うよう配慮されている。つまり

表現技術（レンダリング）の授業では、プロジェクトワークのテーマである電気自動車のデザインを描くことができるのである。また、講義科目でもレポートのテーマにプロジェクトワークのテーマを設定できるのである。つまり、各学生の授業の大きなテーマをプロジェクトワークに置き、様々な関連授業を通じてプロジェクトワークの研究を幅広く、また深く追求できるという仕組みである。学生にとっても同じテーマで様々なことを追求できるため、効率良く体系的に知識を手に入れることが可能である。

（続く）

（本記事はイカロス出版株式会社発行『鉄道デザイン EX 06』に連載されたものを転載したものです。同社のご好意により転載の許可をいただいています。）

studienplan WS89/90		FHG Pforzt									
zeit	8 ⁰⁰	12 ⁰⁰	17 ⁰⁰								
montag		zeichnen									
dienstag			darstellungstechniken IV - 14 tägig								
mittwoch		marketing	kfz-konz.	kfz-ges.				cad			
alle 4 wochen				darstellungstechniken III							
donnerstag		projektarbeit									
alle 4 wochen		darstellungstechniken III									
freitag		projektarbeit									
								kfz-ergo.			

8. Mein Leben in Tübingen — 留学体験記(2)

星崎伶奈 会員

前回に続き、私のチュービンゲン大学での留学体験記(2)をお送りいたします。

今回は、現地での人間関係や、私自身が留学を通して感じたこと、またそれを現在どのように活かしているのか等、お伝えしたいと思います。

留学先で仲良くなった人

国際色豊かな大学であるため、キャンパスには多様な国籍の学生がいました。

私のような1、2セメスターという期限がある留学生だけでなく、学士を取るために4年間勉強している人や、マスターを取るために院進している人がおり、入寮希望者には大学在籍の



チュービンゲン大学卒業生と院生

期間や目的で分類されることなく、寮が割り振られていました。そのため、寮に住んでいた私も、共有スペースであるキッチンや洗濯室で、授業やスポーツ等の課外活動と一緒にいない人と接点を持てたのは、様々な発見があり、面白かったです。院で脳と夢の研究をしている人、特定の人が聞く音楽を人工知能で分析をし、彼らの好みに合わせた音楽を勝手に作り出すAIを作っている人、哲学を専攻し、その思考を取り入れながら弁護士になるための勉強をしている人。多くの人との出会いがあり、留学生生活を豊かなものにしてくれました。

コロナで強制帰国となる前、フランクフルトに観光へ訪れました。旅行の際は、ほとんどの場合がそうですが、ドイツ国内旅行の時にも Airbnb を使い、民間の人の家へ宿泊させてもらうことに。ここでも、素敵な出会いがありました。宿の主が、アジア圏への旅行が大好き＆お仕事がお休みということもあり、フランクフルト観光をしてくれることになりました。フランクフルトの地元のお店を紹介してくれたり、アジアでの旅行の話をしてくれたりと、とても有意義で楽しい時間でした。



観光案内をしてくれた Airbnb の宿主

その中でも、印象強く残っているのが、ドイツ国内にある証券取引所でも一番大きいフランクフルト証券取引所。その取引所の前で、敵を攻撃する時に角を思いっきり突き上げ攻撃する牛と、二本立ちで勢いよく打ち下ろして戦う熊の攻撃パターンを相場の値動きになぞらえた、ブルとベアの銅像を実際に見ることができ、経営学を学んでいた私にとっては嬉しい出来事でした。

日本から見たドイツ

前回にもお伝えしましたが、新型コロナウイルスの影響により、私は本来の留学期間よりも半年早く日本へ帰国しました。僅か半年間ではありましたが、良い意味でも悪い意味でも、日本とドイツとの違いを自分なりに理解できたように思います。

その一つが、働き方です。生産性が高く、先進国の中でも労働時間が短いと聞いていたドイツ。日頃の就業時間が短い上に、1ヶ月単位で長期休暇をとってバカンスを楽しむのが当たり前と思っていたドイツですが、私の住んでいた場所は大学町と呼ばれ、住民は大学関係者ばかり。オフィス街などもなく、スーツを着ている人を見かけることは極稀です。大学関係者は学生同様、長期休みがあるため、ヨーロッパでよく見られる休暇の実態については知ることができませんでした。

それでも、一つ驚いたのが、日常生活の中で目にしたドイツ人（欧米）ならではの働き方。寮の近くに、nah und gut Kief というスーパーがあり、よく食材や日用品の買い物をしていました。初めてスーパーへ行った時に驚いたことは、店員さんが座ってレジ打ちをしていたことです。日本では座って接客など考えられないと思うのですが、椅子に座って、時には携帯をいじりながら接客をする姿に驚きました。そこでは、“お客様は神様”という考えがないことを実感させられましたし、確かに、わざわざレジ打ちをするために立つ必要があるのか、と考えさせられました。失礼のないように、と“おもてなし”を大切に日本の心ももちろん大切です。実際、それは海外でもよく賞賛されている日本の誇れる文化だとも思います。ただ、それが形骸化してしまっているケースもあると思います。従業員の負担や効率性を考えていくと、他の仕事でも、無駄だけれど、慣習等で行われていることも沢山あり、そういうところにビジネスチャンスであったり、新しい経営手法が生まれたりするのかもしれないと、改めて思いました。

私は、4月から社会人として企業で働いています。大企業である分、仕事は細分化され、ローテーションも多い。そのため、新人ということもありますが、マニュアル通りに仕事をすればなんとかなる部分も多いのです。こんな時、ドイツで衝撃を受けた時のように、自分の直感も大事にすること、また、違った見方ができないか、ということ意識しています。常に、周りに従うのではなく、正しいか間違いかは関係なく自分が感じる、思うことは大切にすること。そして、言われたことだけをやるのではなく、どうしたらより良くできるのかを考えます。自分の当たり前と他の人の当たり前は違うからこそ、そこに新しいものが生まれるチャンスもあるのだと、あの時受けた衝撃を仕事にも活かすようにしています。今度は、是非海外支社へ行って、海外の仕事で関わる人が、どの様に日本と違う働き方をしているのかを直接見てみたいと思っています。



ブル（強気の象徴）

また、余談ですが、私が初めてこのスーパーを訪れた頃には、棚4つ分くらいであったアジア食品コーナーが、ドイツを去る頃には、12棚分くらい増え、種類も数も豊富になっていました。昔からアジア系の学生も多くいたはずなのに。こんな田舎町でも、昨今のアジア系フードの人気の高まりを受けつつあるのかもしれない。（完）

9. 姉妹都市フュッセン市オンライン体験ツアー

清水めぐみ（沼田市役所企画政策課）

2020年は沼田市とドイツ連邦共和国フュッセン市の国際姉妹都市提携25周年の節目の年として、通常であれば、市長が相互訪問し、お互いの友情を深める年のはずでした。また、同年にフュッセン市のPaul Jacob（パウル・ヤコブ）市長が退任され、Maximilian Eichstetter（マクシミリアン・アイヒシュテッター）市長が新市長として就任され、両市長へのご挨拶も兼ねての相互訪問の予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、相互訪問が延期となりました。

また、沼田市は東京2020大会におけるドイツを相手国とするホストタウン登録をし、ドイツフェンシングチームの事前合宿地として準備を進めてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、当市での事前合宿も中止となってしまいました。

交流事業が次々と中止となる中、コロナ禍でも開催できるオンラインで姉妹都市を訪問し、まだお会いしていないフュッセン市のアイヒシュテッター市長に画面を通じてご挨拶できればとZoomを使用した「ドイツオンラインツアー」を開催しました。



沼田市章



フュッセン市紋章

姉妹都市フュッセン市 オンライン体験ツアー

開催日 8/6金

開始時間 午後6:00～
無料

代金 3,000円
端末1台あたり
(5人まで)

夏休みの思い出に
おうちでドイツ観光しませんか？
姉妹都市提携26周年のフュッセンよりライブ中継！

フュッセン市とは

オーストリアとの国境に接するアルプスの麓、ロマンチック街道の終点に位置するフュッセン市は、面積43.51平方キロメートル、人口約1万6千人の森林と湖に囲まれた美しいまち。ローマとの南北交易の中心地として栄え、1273年から1286年にかけて自由都市としての地位を獲得。今も中世の面影を残す町並みとともに自然と調和した美しい風景が、国内外の観光客を魅了している。

姉妹都市紹介

1988年の日独ロマンチック街道姉妹都市提携以来、沼津都市との様々な交流が行われ相互訪問を重ねる中で、ともに美しい山々や自然に囲まれ、固有の文化を大切にしている気風を持つ両市が、今後より一層の理解と友情を深め互いを尊重し合うことを約束し1995年姉妹都市提携を締結。

ツアーポイント

- ★両市長のあいさつ
- ★ドイツよりライブ中継
- ★ミニクイズ大会
- ★ご参加者様にドイツのプチお土産プレゼント

スケジュール

17:50	※開始10分前までに集合
18:00	スタート
18:03	LIVE 旧市街・ロマンチック街道の終点の紹介
18:15	LIVE ロマンチック街道の観光スポット映像
18:45	LIVE ミニクイズ大会
18:50	LIVE レヒ川沿いの紹介
19:10	LIVE 質疑応答
19:20	両市長のあいさつ（予定）
19:25	ツアー終了

お問合せ 0278-23-2111 kikaku@city.numata.gunma.jp

《発行時間》 平日 8:30～17:15 《住所》 〒378-8501 群馬県沼田市下之町 888 番地

お申込み <https://www.city.numata.gunma.jp/shisei/1008312/1008315/1011050.html>

ツアー開催の直前までフュッセン市は雨降りとの情報があり、心配しておりましたが、参加者の熱意が伝わり、ツアー開催時には青空が広がり、フュッセン市のかわいらしいパステルカラーの街並みがとてもキレイに映りました。

旅行代理店の方が実際に歩きながら映す画面は、フュッセン市の雨上がりの爽やかな空気を感じられる臨場感あふれるものでした。



フュッセン市の様子



マグヌスの噴水

ローテンブルク名物のお菓子シュネーバルは、フュッセン市でも手に入り、旅行代理店の方が大きなシュネーバルを食べてみせる姿も一緒に旅行に行った気分を味わえました。



また、途中で開催されたドイツクイズでのぐんま日独協会会員の方々の正答率の高さは圧巻でした。ツアー終盤では沼田市長とフュッセン市長の挨拶があり、コロナ収束後の相互訪問を約束しました。ツアー終了後、参加者から多くの感想が届き、「楽しかった」「良かった」「また開催して欲しい」と好意的なものばかりでした。最初は「オンライン」というハードルが高く、なかなか参加者が集まらず苦慮しましたが、すでにオンラインでのイベント開催実績をお持ちのぐんま日独協会会員の方々にも参加にご協力いただき、最終的には定員の 50 名に達し、多くの方に参加いただけました。また、想定していたよりも好評価で、旅行代理店の方と一緒により良いものへと作り上げたツアー企画が、皆さんの心に響いて良かったです。オンラインツアーを気軽に参加できる海外旅行として定着させるのも新しい生活様式の中では良いのかもしれません。

今回の企画にご協力いただきましたぐんま日独協会様に深く感謝申し上げます。



沼田市横山市長とフュッセン市アイヒシュテッター市長

10. ドイツ人のお名前

前号に続けて、ドイツ人の名前を題材にした川柳
後半をお届けします。

作 近藤基晴

コロナ禍で活躍している料理人
(Koch → Robert Koch Institut)
コール (Kohl) さん好きな食べ物酢キャベツだ
ミューラーさん (Müller) 私の職業粉屋さん
わが職は仕立て屋さんだシュナイダー (Schneider)
F1 でいい靴履いたシューマツハ (Schumacher)
わが頭 木づち (Schlegel) でたたくシュレーゲル
ゾルゲさん不安 (Sorge) を抱えスパイする
わが妻に花束 (Strauß) 渡すシュトラウス
トランプをダウトと叫ぶタウト (Taut) さん
名織りエわが故郷のヴェーバーさん (Weber)
部屋作り自慢するのは大工さん (Zimmermann)
お砂糖 (Zucker) で山 (Berg) を作ってフェースブック



11. ぶらり ぐんま ドイツ語で!

長井宏之 会員 独訳 宮越リカ 会員

～ 青春の詩 Samuel Ullman の詩碑 ～

Jugend ist kein Lebensabschnitt, es ist eine Geisteshaltung. Niemand wird alt, weil er eine bestimmte Zahl an Jahren gelebt hat. Dies ist ein Zitat (teilweise geändert) aus dem bekannten Gedicht von Samuel Ullman. *Wir werden alt, wenn wir unsere Ideale aufgeben. Du bist so jung wie deine Hoffnung,* so sagt das Gedicht.

Yoshio Okada, der Übersetzer des Gedichtes, lehrte in späteren Jahren im Studienfach Textiltechnik an der technischen Fakultät der Universität Gunma.

Heute befindet sich in dem Garten der Fakultät für Wissenschaft und Technik der Universität Gunma (in Kiryu) ein riesiger Gedenkstein (①), auf dem die Reliefportraits von Okada und Heizaburo Mori, der Okadas Übersetzung verbreitete, zu sehen sind, zusammen mit dem Gedicht in englischer Originalfassung und japanischer Übersetzung. Man findet den Gedenkstein gleich neben dem historischen Gedenkhaus “Doso-kaikan” der Fakultät (②).

Auch in Maebashi gibt es einen Gedenkstein mit dem gleichen Gedicht (③) (und einer anderen Übersetzung). Das weiß getünchte Lehm-speicher nebenan (④) stand ursprünglich auf dem Elterngrundstück des berühmten Dichters Sakutaro Hagiwara und wurde hier rekonstruiert.

Die Ufer des Hirose-Flusses (⑤, ⑥) ist ein malerisches Touristenziel.



青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。年を重ねただけでは人は老いない。これはサミュエル・ウルマンの有名な詩の一節です(一部改)。理想を失う時に初めて老いがくる。希望ある限り人は若い、といえます。この詩の訳者の岡田義夫は晩年、群馬大学の工学部繊維工学科で教鞭を執りました。

現在、群馬大学理工学部(桐生市)の校庭には巨大な石碑①があります。岡田とその紹介者森平三郎の顔のレリーフ、元の英語の詩文、和訳文を見ることがができます。伝統的建物の同窓記念会館②のすぐ隣にあります。



①

また、前橋市にもこの詩を彫ったもう一つの石碑③(別人の訳)があります。その隣には白壁の土蔵④があります。有名な詩人の萩原朔太郎の家にあったもの(移築)です。

広瀬河畔⑤⑥は風光明媚な観光地です。



③

12. お知らせあれこれ

① ドイツ大使館主催 絵画コンテスト「わたしのドイツ」

今年もドイツ大使館絵画コンテスト「わたしのドイツ 2021」にたくさんの応募をいただきました。今年は日独国交 160 周年ということでテーマは「となりのドイツ」でした。県内小、中学生から 50 点の応募がありそのどれもが素晴らしい力作ばかりでした（共愛小学校 31 点、高崎市立東小 1 点、前橋市立第六中学校 15 点、前橋市立名桜中学校 3 点）。全国 497 点の中から 24 点が入選し、その作品は大使館内アトリウムに展示されています。オープンデー（公開展覧会）は新型コロナウイルス感染症対策のため今年も実施できませんが、参加者・協力者の方は事前予約にてご覧いただけます。（見学は 1 回あたり 5 人まで、時間は最長 20 分で大使館の開館時のみです。）展示期間は来年 1 月中旬ごろまでの予定です。また大使館 HP「となりのドイツ大集合」では全作品を紹介しています。（O）



② 日独交流 160 周年記念ドキュメンタリー映画 少林山にて撮影

「東京在住のドイツ人建築家であるグロス夫妻が日独交流 160 周年記念ドキュメンタリー映画作成のため、少林山を訪問しタウトと洗心亭に関する撮影とインタビューをしたいので協力をしてほしい」という依頼が 6 月下旬にドイツ大使館よりありました。協力は惜しまないものの、時まさに新型コロナ感染第 5 波に入ろうとするタイミングだったため、沈静化するまで待っていただき 10 月 10 日にやっとその機会が訪れました。少林山達磨寺の廣瀬住職などへのインタビューや撮影を数回の訪問で行いました。時には月明かりの洗心亭撮影のため夜間の撮影もありました。撮影もインタビューもご夫妻二人だけで精力的にこなしていました。また、日曜日には 3 歳の息子さんも参加して和やかな雰囲気の中で順調に作業が進みました。出来上がりが楽しみです。（K）



③ 日独協会主催 「日独 Manga コンクール 2021」

「日独漫画コンクール」に、2019 年に続き今年も当会会員の bear さんが応募されました。日本からの応募は全 9 点。Bear さんの作品「ケンペルの江戸参府旅行」は入賞だったとのことですがその作品は素晴らしいものでした。漫画の題名となりました「エンゲルベルト・ケンペル」については次号ハイマートに bear さんから寄稿いただく予定であります。また、漫画作品につきましては HP に掲載される予定です。（O）

貸し出します

「多様性～人と森のサステナブルな関係」 池田憲昭 (2021 年)



著者は、ドイツ・フライブルク大学で森林環境学を専攻、シュヴァルツヴァルトを拠点として、森林、木造建築、エネルギーなどの分野で長年日本とドイツをつなぐ活動を行っています。8 月にはぐんま日独協会森林勉強会の講師もお願いしました。『《多様性》をキーワードに、「森づくり」から「地域木材クラスター」「モノづくりと人づくり」「森のレジヤー」「森の幼稚園」さらには最新の生物学に基づいた「文明論」まで、私が過去 20 年の間で経験したことを軸に、多面的にわかりやすく論じています。』（池田氏）という本書は、広く一般読者にもわかりやすく書かれています。興味のある方、事務局（info@jdg-gunma.jp、027-288-4297）までご連絡いただければ貸し出します。(M)

編集後記

今号のハイマートも 3 人で四苦八苦しながら発行に至ることができました。オンラインでの編集作業はパソコンの調子が悪くなったり通信状態が不安定で途切れたり一筋縄ではいかないことが多々ありました。それでも連載や寄稿をお寄せいただくみなさまのおかげで予定通り進めることができました。ありがとうございました。感謝申し上げます。今号ではドイツ・フュッセンと姉妹都市提携をしている沼田市が行ったオンラインツアーの様子も取り上げております。また表紙は森林勉強会有志が玉原のブナ林を散策した時の写真です。このハイマートをご覧になったみなさまが、ふとドイツを感じたりドイツに思いを馳せたりしていただけたら嬉しいです。(O)

**** ホームページ ****

jdgunma

<https://www.jdg-gunma.jp/>

ぐんま日独協会のホームページでは、ドイツサロン、ドイツ語ニュースを聞く会など
今後のスケジュールを確認したり、ドイツフェスティバルのパネル展示をはじめ
ドイツサロンなど会の活動の記録、ハイマートのバックナンバーなどを閲覧できます。
どうぞご活用ください。

**** Facebook ****

<https://www.facebook.com/JDGGunma>

ぐんま日独協会の Facebook では、
協会の話題に加えてドイツ大使館や日独ユースネットワークなどが
発信するコンテンツも掲載されています。

**** Instagram ****

<https://www.instagram.com/JDGGunma/?ref=badge>

ぐんま日独協会の Instagram ご存じですか？
協会の活動やドイツに関する情報など、新たな情報発信ツールとして、
アップしていきたいと思います。

フォローしてください！

